



週報



国際ロータリー会長
ステファニー A. アーチック
会長 伊東眞知子 第2720地区ガバナー
幹事 石橋 春明 三村 彰吾
大分第4Gガバナー補佐
佐藤 憲幸
地区スローガン



大分城西ロータリークラブ

クラブスローガン「クラブを愛しましょう！ 共に 親睦と奉仕を」

寛容な心で、ロータリーの未来、そして若者の未来を考えよう。

<四つのテスト> 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

出席報告	6月 11日					例会日	水曜日 12:30～13:30		編集担当	6月	吉岡尚美
	会員総数	出席者数	出席率	ゲスト	ビジター	例会場	ホテル日航大分アストア7F			7月	眞上晋
	28 名	20 名	74.07 %	1 名	0 名	ホームページ	http://oitajosairotaryclub.com			8月	高木昭信
事務局 〒870-0021 大分市府内町トナリ会館4階 TEL 097-532-0611 FAX 097-532-8386 Eメール oitajosairc@mist.ocn.ne.jp											

2024-2025	第35回例会	6月18日	No.1595	ロータリー親睦活動月間
◆本日のプログラム (6月18日)			◆今後の例会予定	
18:30	点鐘		●6月25日	定款第7条第1節に基づき例会取りやめ
	ロータリーソング「四つのテスト」		●7月2日	山本会長・吉岡幹事の挨拶
	ゲスト・ビジターの紹介	伊東眞知子 会長	●7月9日	わくわく広場動画報告/会員増強会議
	会長の時間	伊東眞知子 会長	●7月16日	未定
	出席報告及び幹事報告	石橋春明 幹事	●7月23日	定款第7条第1節に基づき例会取りやめ
	ロータリー情報	R情報担当委員	●7月30日	岩田和久会員の卓話
	委員会報告	各 委 員 会	●8月6日	ゲスト卓話
	スマイルボックス	会 員 各 自		
18:45	感謝のつどい		●職業奉仕3分スピーチ (予定)	
	司会 神野寛明親睦担当リーダー		7/9 ナシ	
	挨拶	伊東眞知子 会長	7/16 伊藤会員	
	乾杯	佐藤憲幸G補佐	7/30 中山会員	
	～歓談～		8/20 石橋会員	
	会長賞・出席100%発表	伊東眞知子 会長		
	ガバナー補佐賞発表	佐藤憲幸 G補佐		
	いやさか	山本真一会長エレクト		
21:00	閉会			

◆今週のお祝い (6月18日)	
今週のお祝いはありません	
◆ゲスト・ビジターの紹介 (6月11日)	
●ゲスト	エリシモ, シャレン グラシエラさん (米山奨学生)
●ビジター	ナシ
◆幹事報告 (6月11日) 幹事 石橋春明	
<ul style="list-style-type: none"> 次年度RI会長マリオ・デ・カマルゴ氏が個人的・ビジネス面の懸念により辞任をされました。ステファニーA.アーチックRI会長からの書簡を回覧しております。 国際ロータリー2720地区2025~2026年度RLIスケジュールのお知らせが来ています。回覧しております。 来週6/18 (水) は感謝のつどいです。時間は18:30より都町の笑来 (わらく) にて開催されますので、お間違えないようお願い致します。 6/25 (水) は休会となっておりますので、来週が伊東年度最後の例会となります。次年度山本年度は7/2 (水) が第1回目の例会となります。 元会員の小野日隆様より、あわのさま98号が届いております。同封の手紙は回覧しております。 	

◆ロータリー情報 工藤 隆 会員

クラブ協議会とは クラブのプロジェクトと活動について協議するために開かれる。

クラブ役員、理事、委員会委員長を含む、クラブの会員全員が出席する会合。

(2024～2025年 伊東真知子会長年度のクラブ協議会)

- ・ 2024. 12.11 上期の反省・下期の取組み
- ・ 2025. 5. 14 今年度を振り返って
- ・ 2025. 5. 28 次年度委員会ごとの奉仕計画の協議
- ・ 2025. 6. 11 次年度奉仕計画の発表

(参考) 2023～2024年 衛藤祐介会長年度のクラブ協議会

- ・ 2024. 5. 29 次年度奉仕計画の協議
- ・ 2024. 6. 12 次年度奉仕計画の発表

◆バギオ基金寄付 (6月11日)

廣瀬 舜一 会員 1万円

日露戦争120周年記念に当たって

日本海海戦の気概で国を守り抜こう

1904～5年に戦われた日露戦争は国力が日本の5倍以上あったロシアとの戦いで、世界中の人が日本が敗けると思われた戦いでした。(注.現在のロシアはGDPで日本の45% 韓国並みの国家です。)

陸軍は朝鮮の北部から満州にかけて6回もの会戦を行い日本が勝利しています。特に最後の大会戦となった満州中部の奉天の会戦(双方合わせて55万人もの戦い)に勝利し、陸上の戦いでも日露戦争を勝利に導きました。この日本の勝利はAC17年以後300年に渡る白人の植民地支配に苦しむ世界のリーダーに、私達もやれば出来ると思う勇気と気概をおこした世界的偉業でした。

特に海戦でのハイライトとも言える日本海海戦の勝利は世界の3大海戦の1つとして世界の海戦史上燦然と輝いています。

他の2つはAC18年に英国のネルソン提督がスペインの無敵艦隊を打ち破ったトラファルガー沖の海戦です。もう1つはAC3年にギリシャがオスマントルコの大艦隊を破ったサラミスの海戦です。

1905年5月28日の日本海海戦は信濃丸の「ロシアのバルチック艦隊見ゆ」との無電で始まりました。

チンカイ湾に待機していた東郷司令官は「皇国の興廃はこの一戦にあり 全員一層奮励努力せよ」とZ旗を高く掲げて全乗組員に奮起を促し対馬沖で待ち受けました。連合艦隊の司令長官東郷平八郎は大回頭という機略でロシア側に集中砲火を浴びせ、54隻のバルチック艦隊の主力の大半を撃沈した完全勝利で世界を驚かせました。(注.日本の損害は水雷艇3隻沈没のみ)

完全勝利の原因は東郷司令の指揮や秋山参謀の作戦に加えて猛訓練の賜物である的確な射撃と兵士達全員の奮闘によるものです。加えて日露戦争を支えた基盤作りとしては日英同盟を結んでロシア戦に備えた当時の政治家の力量とセンスの良さがあります。この同盟のお陰で内外の世界情勢を的確に掴んで対応出来たことや英国のユダヤ金融商人より当時の国家予算の5倍もの戦費が調達出来ました。

更に単身でロシア社会にもぐり込んでデモやストライキを過激化させロシアの共産革命や反政府活動に火を付けた明石元二大佐の謀略工作も見事でした。

最後に兵器面では下瀬氏が下瀬火薬という爆発と同時に艦上が火災で火の海となり戦闘力を無くしてしまう火薬を使ったことです。

加えて、まだ発明されて間もないため、どこの国の海軍も使ってなかった無線通信を使いこなして、司令官の指示が全艦隊に瞬時に伝わり目標艦に次々と砲火をあげ鉄の塊にしてゆきました。

最後に戦後敗軍の将として厳しい追求で職を追われたロゼウントスキー司令に対し、毎月亡くなるまで一定のお金を東郷元帥が送り続けたと言われています。一方彼の家族も、彼が死亡すると同時に東郷さんの送ったお金を全額返金してきたそうで、国と国との戦争にも武士道があったすばらしい時代の話です。

さて、現実を振り返ると、日本の安全は戦後最も厳しい局面に直面し、明治の先達が示した日本という国を守る気概と勇気を学ぶことが求められる時がやって来ました。

◆スマイルボックス（6月11日）

二宮 浩司 会員 1口

6/8で65歳になりました。まだまだ元気なつもりでいましたが、最近腰の痛いのが慢性化して全く良くなりず、年金の書類もたくさん来たりして、嫌でも年を実感させられます。年に負けず元気でやっていきたいと思います。

◆会長の時間（6月11日）

会長 伊東眞知子

2025・6・11

会長の時間 伊東 眞知子

皆さん こんにちは



会長の時間も 歳時記を一周しまして 再び田植えの時期になりました。左は昨年7月3日一回目の会長の時間に載せた 昨年の時松での 田植えの様子です。今年も22日に時松地区で田植えを予定しております。是非ご家族で参加なさってください。

最近はお米のご飯を食べないという方も増えているようですが 去年からの米不足で毎日ニュースでは 令和の米騒動でもちきりです。お握りは 若い人の間でも人気があるようでやはり 日本人はお米が大好きだと 私は再確認した気持ちです。

ところで この「田植え」ですが 水田での稲作では 通常は苗代田に種籾を蒔き 育った早苗を本田に移し替えます。この移し植えを田植えといいます。

私が小学生の頃は 確か社会科で 種蒔きから始まって 育苗 田起こし 稲の育成 稲刈り 揉み落とし 乾燥 精米と稲作の工程が教科書の最初に掲載されていたようにうっすら覚えています。今も同じでしょうか。

佐藤憲幸会員のお世話を頂き 時松で田植えや稲刈りをこの十年の間 体験させていただき 私も 稲作のことが何とかわかるようになりました。そして 日本人が稲作を受け入れて以来 日々の生活から文化 信仰までのすべてが米作りの上に存在していると この一年 歳時記を調べているうちに 気が付いてきました。

そういえば 子供のころ 汽車の窓から見える景色は ずっと続く 田んぼや畑の連続でした。

前の年の秋に稲を収穫したままの 春の田んぼを「春田」といいます。田植えの前で水を引き入れ 準備の整った田を「代田」（しろた）。「苗代田」（なわしろた）は 早苗を仕立てるための田。稲を植えている田を「稲田」。稲の苗が成長し青々と見える田を「青田」。

稲を刈った後の田を「苧田」。冬 雪の積もった田を「白田」。

作物がよく実る田を「美田」。など 田んぼの状態でもっともっといろんな表現がされていまして 田んぼ、水田は私たちにとって身近なものだと改めて思います。

二十四節気 夏至の七十二侯の初候は「半夏生」といいます。



「半夏生」は 現在の7月2日の頃のことで 「半夏」とはサトイモ科の烏柄杓（からすびしゃく）のことです。 田畑のあぜ道などにこの時期 生えてくる草です。その塊茎（かいけい）は半夏として漢方薬などに含まれます。半夏厚朴湯や半夏瀉心湯 などですが 健胃消化作用や 吐き気止め 鎮咳去痰作用などがあります。この半夏が生えてくるのを「半夏生」で半夏生ずの侯です。農家には「半夏半作」といって この半夏生の日までに田植えが終わっていなければ 秋の収穫が半分以下になるという伝えがありました。

この半夏生の時期に 半夏とは別の半夏生というドクダミ科の花があり 茶花として床に活けます。半夏生の時期に咲く花で半夏生となづけられたのでしょう

半夏生は半化粧とも書き 葉の半分ほどが白くなる
ことからこの名前が付いたようです。
大分市横尾にある
「うーたの里」では
6月の末頃から半夏生が群生して美しいそうです。
是非 見に行ってみてください。



◆クラブ協議会

クラブ協議会『次年度委員会ごとの奉仕計画の発表』				
	SAA	佐藤俊治	職業奉仕	河野浩二
	クラブ運営	芳崎一郎	社会奉仕	伊藤秀海（中山委員代読）
	親 睦	原田隆雄（芳崎委員長代読）	社会奉仕	中山省悟
	プログラム	園田哲史	青少年	神野寛明
	R情報	工藤 隆	環境保全	二宮浩司
	危機管理	山本真一	国際奉仕	高木昭信
	公共イメージ向上	眞上 晋	国際奉仕	寺崎直史
	I T	眞上 晋	R財団	岩尾隆志
	クラブ会報・雑誌	衛藤祐介（眞上委員長代読）	米山奨学会	伊東眞知子
	会員増強	岩田和久		
以上の各担当者より、それぞれの奉仕計画を発表していただきました。				

◆次年度山本年度持ち回り理事会議事録（6月11日）

山本年度 臨時理事会 議事録	
第1号議案 職業分類「不動産開発」の追加および奈須会員の分類変更について	
現在、奈須会員の職業分類は「不動産管理」となっておりますが、ご本人より現在の実務内容は「不動産開発」のため、分類の変更をお願いしたいとの申し出がありました。	
しかしながら、当クラブの職業分類において、大分類「不動産業」の下位に「不動産開発」という小分類は現在設定されておりません。	
つきましては、以下の通りご審議をお願い申し上げます。	
1.	大分類「不動産業」の小分類に「不動産開発」を新たに追加すること
2.	奈須会員の職業分類を現行の「不動産管理」から「不動産開発」へ変更すること
上記2点の議案について、出席理事より特段の異議・反対意見はなく、全会一致にて承認されました。	
以上、議事録といたします。	

